

# eスポーツ対戦 攻防に歓声

## 長井工高と白鷹・荒砥高 交流学習会



両校の生徒がeスポーツで対戦し、盛り上がった交流学習会  
＝長井市・長井工業高

キャンパス制を導入している長井工業高（阿部新吾校長、160人）と荒砥高（石田充校長、71人）の交流学習会が5月31日、長井市の長井工業高で開かれ、両校の生徒がデジタル技術の可能性やeスポーツの魅力

に触れた。市内のeスポーツ施設「ネスト」を運営する日本・アルカディア・ネットワークの高石仁光部門マネジャーが「スマートシティ長井とeスポーツ」と題して講演した。長井IOBの高

石さんは市内の無人店舗「スマートストア」やデジタル地域通貨「ながいコイン」、情報通信技術（ICT）を活用した有害鳥獣対策などを説明。「分野を超えたデータが連動することで新たなサービスや価値が創出される」とし「デジタル人材の育成が重要になっている」と指摘した。

格闘ゲーム「ストリートファイター6」を用いたeスポーツ体験は、2人1組で両校とも2チームが参戦した。大型スクリーンに映し出された一進一退の攻防を見守る仲間から歓声や拍手が起った。共に3年で長井工の川部頼生さん（17）と荒砥の鈴木秀都さん（17）は「画面越しでも相手との距離が縮まる感じがいい」と話した。

両校のキャンパス制は2013年度にスタート。生徒や教員間の連携・交流を通じて教育環境の充実を図っている。（須藤仁）